

学校教育目標 「生命(いのち)輝く子どもを育てる」
一心はほかほか、学びはしっかり、体ははつらつー」

とていの かふち



《学校だより》 第2号

令和4年4月26日発行
湯河原町立湯河原小学校
校長 北村和裕

今年度がスタートして、3週間が経ちました。19日(火)に授業参観を行い、221名の方に参観をしていただきました。新年度になって新しいクラスでの生活にも少しずつ慣れ、集中して学習に取り組む姿がいろいろな場面で見られました。保護者の方の参観も後押しをしてくれたのだと思います。また、その後は体育館でPTA総会を行いました。報告・協議事項の後、今年度のPTAの役員の方々の紹介に続いて本校の教職員の紹介もさせていただき、和やかな雰囲気では進んでいきました。PTAの役員・委員の皆様1年間よろしくお願いします。



人権講話 言葉のキャッチボール

湯河原町教育委員会では、4月を『湯河原町人権教育月間』に設定しています。4月14日のオンライン朝会では人権に関わる話をしました。小川栄養士と私で実際にボールを投げ合いながら話をした「言葉のキャッチボール」です。



キャッチボールはボールを投げ合うものだけれど、実は、みんなは普段から言葉を使ってキャッチボールをしています。例えば、朝友だちや先生に会ったとき、「おはようございます」というボールを相手に向かって優しく投げます。すると相手も「おはようございます」とボールを優しく返してくれます。ところが、「おはようございます」のボールを投げても、取ってくれなかったり(返事をしてくれない)、投げ返すボールが弱くて届かなかったり(「おはようございます」と言っただけで相手に伝わらない)することもあります。お互いにキャッチボールをしっかりして気持ちのいいあいさつを交していきましょう。

それから、休み時間にも言葉のキャッチボールをしています。ドッジボールに入れて欲しいときに「ドッジボールに入れて」というボールを投げます。相手が「いいよ」というボールを投げ返してくれるとホッとします。ところが、「ドッジボールに入れて」というボールに対して「いやだよ」と言いながら強くボールを返されたらどうでしょう。また、ドッジボールをしていたとき、「あ、ごめん。変なところに投げちゃった」というボールに対して、「なにやってんだ。へたくそ」というボールを返されたらどうでしょう。とげとげした言葉で悲しくなってしまう。

使う言葉によって、相手がほかほかな心になることもあるし、心を傷つけてしまうこともあります。ほかほかな言葉を使ってキャッチボールができると、みんなで気持ちよく過ごすことができます。

稚鮎の放流

4月21日(木)に、2年生は千歳川に出かけていき、稚鮎の放流を行いました。これは、湯河原観光漁業組合と湯河原町教育委員会が連携して町の3小学校の児童を対象に実施したものです。コロナ禍の影響により3年ぶりの開催となりました。稚鮎といっても10~15cmで思っていたより大きく、各自のバケツに入れてもらうと元気に飛び跳ねる姿に驚くばかり。川辺から放流すると鮎は目にもとまらない速さで勢いよく泳いでいきます。「大きく育ってね」と声をかけながら放流している子もいました。

観光漁業組合の方には、事前に河原の草刈りをさせていただいたり、稚鮎をたくさん用意していただいたり、放流体験を味わわせていただいたりするなど感謝の念に堪えません。地域の方の優しさや温かさを感じながら河原を後にしました。



今年もブログをお届けします

今年も、子ども達が生き生きと活動する様子や心がほかほかになる出来事、学校での取り組みなど様々な内容を、できるだけタイムリーにお届けしていきます。ぜひ、ご覧ください。下記のURLまたは「湯河原小学校ブログ」で検索してみてください。

(その他、子どもたちの様子は学校のブログに掲載中)

<https://www.yusho.site/>